
彼と彼女たちの物語

ウェンディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼と彼女たちの物語

【Nコード】

N6980X

【作者名】

ウエンディ

【あらすじ】

この物語は、普通の男の子と三人の少女との物語である

新しい一日の始まり

「お母さん学校へ行ってきます」

「幸一気をつけて行くのよ」

「はい」

彼の名前は関 幸一 10才彼は1年前の夏にここ海鳴市に母親と共に引っ越してきたのだった。

「おはようなの幸一君」

幸一に声をかけて来た彼女の名前は、高町なのはだった。

「おはようなのは」

幸一がなのはに挨拶をすると満面な笑顔を幸一に見せていた。

幸一もなのはの笑顔を見て顔を紅くしていた。

そんな二人が学校に向かっていると三人の女の子が声をかけて来たのだった。

一人目は、フェイト・Tハラウオン彼女は幸一が転校して数ヵ月後にイギリスから転校してきた留学生なのである。

二人目は八神はやて彼女は、今まで休学していたが今年から復学するようになり学校に通っている。

三人目は、シャルさん彼女ははやての遠い親戚にあたる女性だそうだ。今はやての家にはシャルさん以外に二人と一匹が住んでいるそうです。

「おはようなのは幸一」

「おはようなのフェイトちゃん」

「おはようフェイト」

「おはようなのはちゃん幸一君」

「おはようはやてちゃん」

「おはようはやて」

三人は互いに挨拶を交わすと、学校の校門が見えてきた。

そして、幸一はシャルが押していたはやての車椅子を、幸一が押し始めたのだった。

4人は学校に着くとクラス分けの表を見て、自分たちのクラスへ向かったのだった。

こうして新しい学校生活が、始まったのだった。

学校にて

幸一たちは自分たちのクラスに行くと、ほとんどの生徒が昨年と変わらないメンバーだった。

そして教室に、入った幸一たちに声をかけてきたのは、アリサ・バニングスと月村すずかの二人だった。

三人称 side

「おはようみんな」

「おはよう」

「相変わらず四人で登校するなんて」

（いいわよねなのはたちは幸一と登校できるなんて私は、したくても家が、幸一の家と方角が違うから出来ないから）

幸一たちはアリサたちと朝の挨拶をしていると、授業を開始するチャームが鳴り幸一たちは自分の席に座り授業を受けていた。

そのころ、フェイトの義理の兄であるクロノ・ハラウオンと、義理の母親であるリンディは自宅で、先の戦い闇の書事件については時空管理局には報告していたが、クロノトリンディは、唯一つ納得で

きないことがあったのだった。

「母さんやはり僕はこの件に関しては、再検査が必要だと思います彼の」

クロノは自分の意見をリンディに伝えるが、リンディはクロノの意見に対し難色をしめしていた。

しかし彼は、闇の書事件後に我々によって、彼の時間を奪ったわそれも彼の記憶を消してまで」

「それは仕方がないよ母さん彼には魔法の存在を知られるわけにはいかないのだからもし彼が魔法の存在を知ったら彼のもう一つの人格が目覚めてしまう。母さんも先の戦いで彼飲もう一つの人格がどんなことをしたのかを」

「確かにあれが無ければ、街への被害は、抑えることも出来たでしょうね」

「でもあれは仕方ないわまさか彼の父親が高次元犯罪者のスカリエッティと関わりを持っていたなんて」

そして彼の父親はスカリエッティに頼み息子にもう一人の人格を植え付け父親は彼を闇の書の近くに居させる為に昨年の夏に海鳴市に引っ越してきたのだがその後父親は何者かにより殺されてしまい父親の思惑は費えたのと思われただが、その数ヵ月後に、闇の書事件が発生してしまった。

「そして闇の書の発動が、彼のもう一つの人格を目覚めさせてしまいこの海鳴市を消滅させる勢いで闇の書の暴走被害を拡大させてい

ったのは事実でも、今の彼はただの地球人なのよクロノ」

「そして今の彼にはもう一つの人格の記憶が無いのよ」

「それでもクロノ貴方は彼を・・・関幸一君を管理局の監視下に置くと言うの？」

「答えなさいクロノ」

「・・・はい僕は、それが最善だと思うので」

「それじゃあ母さん僕は一度護送準備のために本局に行って来ます」

そして、クロノは時空管理局に向かうのだった。

そのころ学校では、お昼休みでなのはたちは屋上でお弁当を食べながらなのは、アリサ、すずか、フェイト、はやての四人は幸一のことを話していた。

学校にて2

三人称 side

「何で？幸一君あの事件のことおぼえてないんやろ」

「そうよね私とすずかもなのはたちが魔法使いだなんて驚いたけど幸一にも驚かせたわ」

「あれには誰でも驚いたと思うよはやてちゃん。だっていきなり現れた幸一君が暴走状態の闇の書を取り込んだから」

なのはたちが話していると幸一が遅れて屋上へとやって来た。

「皆遅れてごめん」

そしていつものメンバーが、揃い昼食をとっていると、なのはたちにリンディさんから緊急連絡が来たのだった。

闇の襲撃

三人称 side

「なのはさんフェイトさんはやてさん今すぐ幸一さんを連れて逃げてください」

リンディが喋り終わった瞬間なのはたちの周りに強い魔力反応が感知されたのだった。

「何々これはどういうこと？」

「なのは気をつけて何者がここに来たみたいだから」

「なのはフェイトはやて」

幸一は、三人に不安そうな表情を見せていた。

その表情を見たなのはたちは、幸一にむけこう言った。

「大丈夫だよ私たちは何があっても幸一君を守ってみせるから」

なのはがそう言い終わると謎の声が聞こえて来たのだった。

「マスターを守るのはお前たちではないそれは私たちの役目だ」

そして現れたのはなのはたちにそっくりな少女三人だった。

三人称 side end

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6980x/>

彼と彼女たちの物語

2011年10月26日14時05分発行